

令和三年度 答辞

空高くに飛び交う鳥の囀りとともに温かさが戻ってきました。今日、僕たち八十二名は、近衛中学校を卒業します。

在校生の皆さん、先ほどは心に響く送辞をありがとうございました。また、先日の三年生を送る会でもとても素敵なプレゼントをありがとうございました。二年生の力強い *This is me*。「強く生きてほしい」「先輩が大好き」。そんなメッセージに背中を押してもらい、勇気づけられました。また、一年生のハンドクラッピング。そのかわいらしさに、僕たちの始まりの日が甦つてきました。

知らない人ばかりだった入学式は、待ち時間の教室にも緊張感が漂い、静まり返っていました。それを察してなのか、山本先生が出してくださったクイズが超難問で、それをきっかけに緊張がほどけていった記憶があります。

そこから始まつた一年生は、仲間作りの一年でした。その後、学年が大きく崩れなかつたのは、この一年生の時に作つた土台の強さゆえだと思います。僕自身、一番初めに声をかけた彼とは、二・三年でクラスが離れてもつながりが切れることがあります。僕自身、一番初めに声をかけた彼とは、学することになりました。不思議なめぐりあわせを感じています。入学した直後は小学校からの変化に戸惑いましたが、学年目標のにあつた「変わることを恐れず」という言葉の下、僕たちは積極的に変化を受け入れ、だんだん中学生になつていきました。そんな中で、お手本だった先輩方の姿を見て、「あんな先輩になりたい」と強い憧れを抱いた一年でした。

そんな先輩方に追いつこうとした矢先、突然三ヶ月学校に行けなくなつてしましました。時間の空白を抱えたまま「先輩」になつた僕たちは、戸惑いを覚えながら進まざるを得ませんでした。代替わりした部活では、部員の思いを一つにすることが難しく、自分の思いが伝わらないことに苦しい思いをした部長もたくさんいましたね。でも、リーダーを中心に、ぶつかりながらも粘り強く今できることに取り組んでこれたのは、(先ほども校長先生がおっしゃっていたように)「失敗は成長の証」という学年目標の通り、みんなでフォローしあう温かい雰囲気が僕たちの中にあつたからだと思います。

「僕たちはどんなことがあっても乗り越えられる」そう思えた二年生を終え、僕たちは集大成となる一年を迎えるました。最後の部活、形の変わつた行事、受験、沢山のことを受け止めつつ進んできました。その中でも修学旅行の充実感は別格だったようになります。今まで諦めずに頑張つてきたご褒美のように、快晴の中毎日見られた富士山。でも、僕にはそれ以上に忘れられない出来事があります。帰り道、草津インターを過ぎたあたりでのこと。渋滞にはまつたことが分かつた時に、突然沸き起つた拍手。たかだか數十分帰る時間が伸びただけですが、「まだ終わつて欲しくない」と強く思える修学旅行でした。そして、この修学旅行の充実感が表れた瞬間でした。僕は「この学年でよかつた」と心から思います。素晴らしい修学旅行を作つてくれた実行委員(のみんな)、ありがとうございます。

いつも全員でベストを尽くせる学年こそ強い学年です。在校生のみなさんも、今できることを探し、ベストを尽くしていくください。

そんな僕たちに寄り添つてくださった先生方へ。僕たちの安全を第一に何事も慎重に進めしてくださいました。また、授業や部活、委員会などを通して支えてくださった全ての教職員のみなさん、本

当にありがとうございました。

そして家族へ。十五年間応援してくれて、またたくさんの愛情を注いでくれてありがとうございました。おかげで、こんなに大きくなりました。まだまだ迷惑をかけ続けると思いますが、僕たちがお父さんお母さんを支えられるようになるその日まで、どうか温かく見守ってください。

今思うと「歩んできた」というよりも「走り抜けてきた」といった方がぴたりなほどです。でも、走り抜けた毎日がみんなでみんなを助け合う日々。この僕たちの成長は十分誇れるものだと思います。

ただ、悔しさもぬぐい切れません。多くの制限と変更のなかで僕たちが達成したかった「心の温度はホットレモン」を作り上げるにはもう少し時間が欲しかった。あと三か月欲しかったです。（先ほどの送辞の中にあつた「先輩方にまだ追いつきたくない」という言葉。）いつまでも追いかけ続けたいと思ってもらえる先輩であるためにはまだまだ走っていかないといけません。僕たちはまだまだ未完成です。一旦はお別れですが、5年後、タイムカプセルを開けるその日に、必ず再会しましょう。みんなでお酒でも飲みながら思い出を振り返るのも面白いかもしません。その時にはきっと、自分にも仲間にも近衛中にも誇りが持てている、そんな僕たちの姿を未来に託して、答辞の結びとさせていただきます。

令和四年三月十五日 卒業生代表